

廃炉プロセス 「PCV/RPV/建屋の解体」

検討対象 「現状把握」

課題 「解体対象物の性状・物量の把握」

## ニーズ

### 1. 解体物の性状、解体物の量を把握したい。

PCV/RPV/建屋の解体：【長期 1】

#### 望ましい現状とその理由

- 合理的な解体作業計画および廃棄物処理計画を策定するためにも、PCV/RPV/建屋解体前には、どのような性状の廃棄物がどの程度の量発生するのかを把握することが望まれる。

#### 理想に対する現状

- 2022年3月31日に東京電力が公開した「廃炉中長期実行プラン 2022」には、具体的な PCV/RPV/建屋の解体期間が示されておらず、どのような方法・手順で解体を実施するといった検討や、解体時における廃棄物量に関する試算も進んでいない。
- 一方、燃料デブリの取り出しのための PCV/RPV における内部調査や、燃料デブリ取り出し作業の環境改善を目的とした建屋内の放射線源調査や除染の実施は計画されており、それらに関連する研究開発も並行して進められている。

#### 解決すべき課題

- 今後実施されるデブリ取り出し作業時に把握された燃料デブリ等の PCV/RPV/建屋内残留状況も参考に汚染状況を把握する必要がある。
- 解体物の性状・量は汚染状況に大きく影響を受けるため、課題番号：解体-101 と一体となった解決が望まれる。

#### 参考文献

##### (参考) 関連する研究課題

##### 実施されている研究課題

- R2 年度英知「溶脱による変質を考慮した汚染コンクリート廃棄物の合理的処理・処分の検討」
- R3 年度補助事業「原子炉格納容器内部詳細調査技術の開発」
- R3 年度補助事業「原子炉建屋内の環境改善のための技術の開発（被ばく低減のための環境・線源分布のデジタル化技術の開発）」

#### 検討されている研究課題

- 特になし

#### 関連する課題

- 解体-202「 $\alpha\beta\gamma$  分別基準の設定」
- 解体-203「解体シナリオ・分別戦略の策定」
- 解体-204「作業シーケンスの設定」
- 共-1「遠隔技術」